

# 東日本大震災のバリアフリー交通からみた復興整備の問題点と課題



## 地域単位の地域交通に関する調査

### 1. バスを主にした地域交通の移動に関する評価

目的：①国土交通省・県・市町村・バス事業者などへのヒアリング調査によりバスの被災、復旧状況を明らかにする。

②全仮設住宅における移動の状況を調査し、課題を明らかにする

③さらに、1年経過後のバス路線の整備計画を特定の自治体数例を対象に調査を行い、バスによる人々のモビリティの救済状況（効果）を明らかにする。

対象：②以外は山田町、石巻、南三陸町、陸前高田町等から数都市に限定する。

方法：国・県・市など資料やヒアリング調査、現地踏査等による。特定都市ヒアリング（市町村・バス事業者）

結果：・仮設住宅における移動に関して課題を明らかにして、現状が人々のモビリティ確保の面で十分か否か、さらにこぼれている層を評価する。

・車両投入や路線計画が人々のモビリティ確保において適切であるか否かを評価する。



### 2. 移送サービス、UD タクシーなど

目的：特定都市を対象としてSTサービス・タクシーの現状と利用層を明らかにし、新たな整備によって移動困難者に対してどの程度効果をもたらしているか、またどのようなサービスが必要かを明らかにする。

方法：国・県・市・移送サービス団体、タクシー会社等のヒアリング調査を行う。

結果：移送サービス・タクシーの供給水準が明らかになりサービスが不足する状況を示す。

### 3. 都市内道路計画とバリアフリー

目的：新たな道路計画でバリアフリーが前進したか後退したかの評価を行う。

対象：整備が完了した国道・県道・市町村道などの特定区間をサンプリングする。

方法：現況調査により、幅員確保、段差解消、バス停の整備、など



## 広域的な調査

### 1. 鉄道に関するバリアフリー評価

目的：①鉄道の被災状況とその整備計画を自治体・鉄道事業者・国土交通省のヒアリング、資料・現地踏査等から調査する。

②一般的な鉄道の調査と現地踏査をもとに、各鉄道の震災前と計画がバリアフリーをどこまで計画で取り込んでいるかを調査する。

③また、BRTにするか鉄道の再生にするかに関して、人々のモビリティ、採算性、鉄道の人生における記憶、バリアフリー、の観点から総合的に2区間程度の評価を行う。

対象：宮城県・岩手県の海岸を中心とするルート。

方法：国・県・市・鉄道事業者の資料やヒアリング調査、現地踏査等による。

結果：・鉄道事業のバリアフリー対策の不足する部分を指摘できる。

・BRTと鉄道の代替案の評価を行うことができる。

# 東日本震災調査特別委員会

## —交通分科会の委員公募—

### 1. 目的

被災地域の鉄道・バス・STサービスの運行の現状と課題をバリアフリー観点から明らかにする。さらに、道路の今バリアフリーの現状と課題をも明らかにする。

2. 対象地域：宮城県・岩手県の海岸を中心とするルートや地域。

3. 研究委員会のメンバーの役割：現地へ調査し研究成果をまとめる

例えば、対象を、①鉄道、②都市の交通〔都市は特定都市でもよい〕とする。

4. 委員の公募の締切と人数

人数：6～7人

締切：5月7日秋山まで

5. スケジュール

以下はあくまでモデル的なスケジュールで、今後の変更がある。

5.1 予備調査 ヒアリングによる事前調査

①5月中 国土交通省：道路局、鉄道橋、交通計画、都市局

②5月中 東北運輸局、東北地域整備局、岩手県庁、宮城県庁

5.2 第一次調査 その1. 宮城調査

現地調査（6月～9月）

5.3 第二次調査

10～12月に2回程度

5.4 その他個別調査：必要に応じて行う。

6. 予算：120万円

7. 申し込み先：秋山哲男（aki@k08.itscom.net）